

# 広報てんかわ 臨時号

特集

台風12号の教訓を活かすため  
後世へと伝える記録

台風12号の驚異的な豪雨の影響により、大規模な土砂災害が発生。水位の上昇により南日裏地区の一部・坪内地区が浸水する。

(平成23年9月4日)



## 村長からのメッセージ



天川村長 森本 靖順

平成23年9月、台風12号により私達は過去に経験したことのない災害に見舞われました。しかし被災後は、被災地における災害ボランティア活動や義援金、援助物資など村内、村外を問わず皆様からの心温まるお心づかいをいただき、私達は励まされ勇気づけられました。災害から1年を迎えるにあたりあらためて厚く御礼を申し上げます。

さて、国や県など関連機関の懸命な復旧対策と皆様方のお力添えにより、住宅や道路被害など住民生活に直接かかわりのある復旧復興は進んでおり、基幹産業のひとつである観光産業も順調に回復しております。しかしながら、深層崩壊地の復旧対策など一朝一夕には解決しない問題を抱えており、さらに河川にはとてつもない量の土砂が堆積していて一部の地域では今後更なる浸水被害が懸念されるなど、防災上早急に取り組んでいかなければならない課題も多く、本当の意味の復興は今始まったばかりといえます。

天川の地に住む私たちは、自然に抱かれ、その恵みに感謝することを忘れることなく今日まで生活してきました。私たちは、台風12号豪雨により自然の恐ろしさ、厳しさをまざまざと教えられましたが、それでもなお、自然との共生を柱に今後の復旧復興に全力で取り組んで参ります。

自然とともに生きる





# 後世

# へ伝えなければならぬ記録

平成23年8月30日から9月5日かけて紀伊半島を襲い、猛烈な雨を降らせた台風12号…多くの市町村に甚大な被害をもたらしました。今回の経験を最大限活用できるように、この事実と記録を後世に伝えていかねばなりません。



# 平成23年台風12号の概要

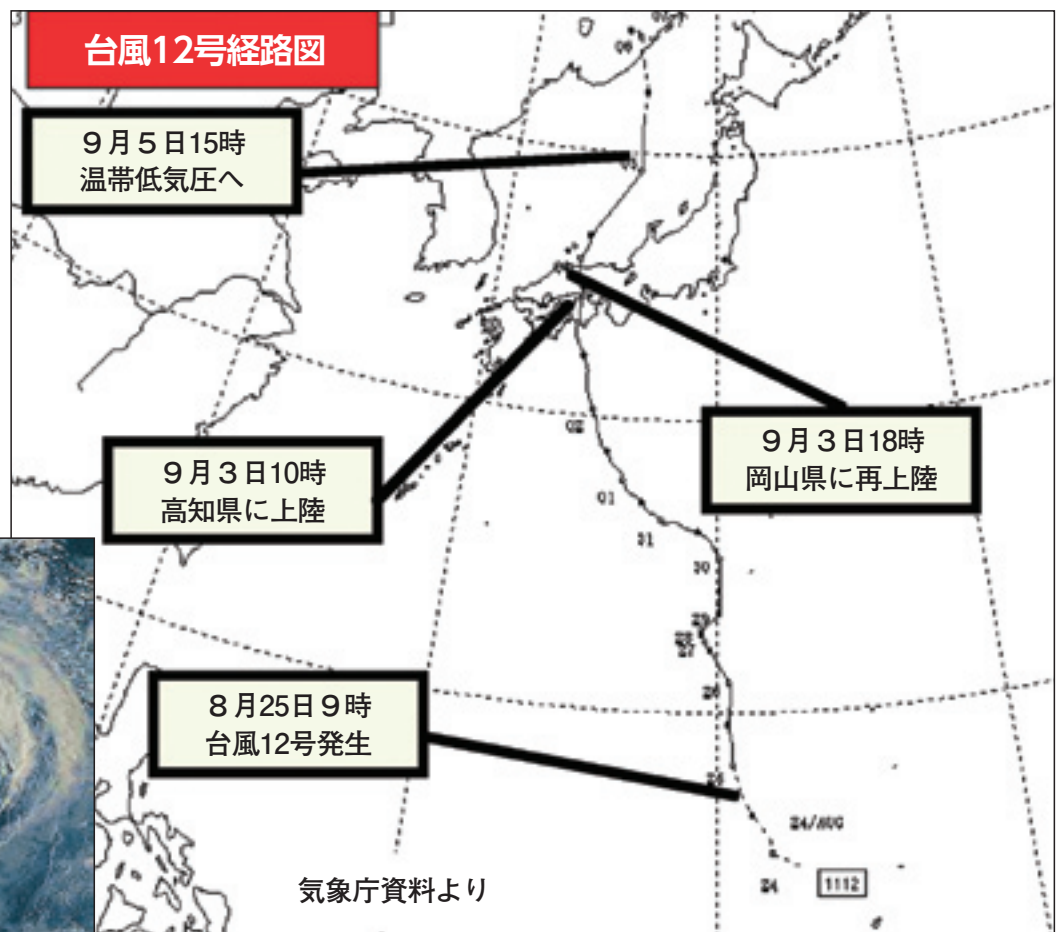
降水量や時間雨量、川の水位やダムの放水量などの記録について

## 台風12号の概要

平成23年8月25日9時にマリアナ諸島付近で発生した台風は、次第に勢力を強め大型の強い台風となり、気圧配置から小笠原諸島近海で停滞し、その後ゆっくりとしたスピードで9月3日10時前に高知県東部に上陸、18時頃には岡山県南部に再上陸し、4日3時には日本海に抜け、5日15時に温帯低気圧となりました。

天川村をはじめ五條市大塔町や十津川村、和歌山県田辺市や那智勝浦町でも深層崩壊といわれる大規模な土砂崩れが発生し、他府県での浸水被害なども含め数多くの犠牲者や行方不明者を出し甚大な被害となりました。

とくに奈良・和歌山両県での被害は著しく、「紀伊半島大水害」と命名され、災害救助法の適用や激甚災害の指定を受けました。



## 記録的な雨量

大型の台風で、かつ動きが遅かったため長時間にわたり台風周辺の非常に湿った空気が西日本から北日本にかけて流れ込み、広い範囲で大雨となりました。

とくに台風を中心から東側に位置した紀伊半島では総降水量は広い範囲で千ミリを超え、奈良県上北山村にあるアメダスでは72時間雨量が1976年からの統計開始以来の国内の観測記録を大幅に上回る1,652.5ミリ、総降水量は1,808.5ミリに達しました。また、一部の地域では解析雨量2千ミリを超えるなど記録的な大雨となり、紀伊半島南部を中心とした各地で甚大な被害をもたらしました。

### ●天川村での雨量

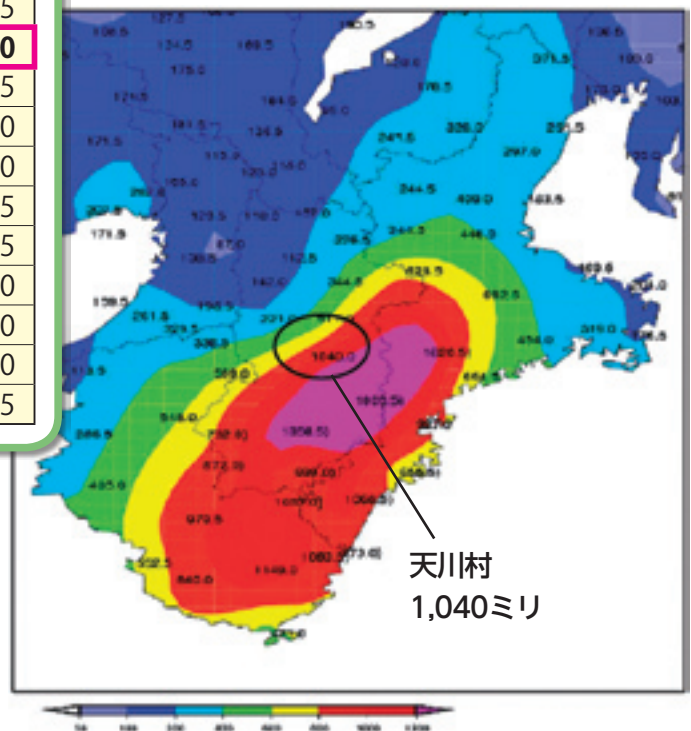
日付	一日の雨量	一時間最大雨量(mm)
8月31日	23.0	5.5
9月1日	101.5	10.5
9月2日	425.0	36.5
9月3日	410.5	<b>40.0</b>
9月4日	80.0	16.0
累計	1,040.0	—

天川村でも、8月31日から9月4日までの5日間に渡り降り続いた雨は累計で千ミリを超え記録的な雨量となりました。とくに、累積雨量が五百ミリを超えた9月3日に1時間40ミリの雨がさらに降ったことで坪内地区での深層崩壊などの未曾有の災害をもたらしました。

### ●観測表（奈良県内のアメダス）

期間降水量（8月30日18時～9月4日24時、多い方から）

市町村名	地点名（よみ）	値(mm)
吉野郡上北山村	上北山（カミキタヤマ）	1808.5
吉野郡十津川村	風屋（カゼヤ）	1358.5
<b>吉野郡天川村</b>	<b>天川（テンカワ）</b>	<b>1040.0</b>
宇陀郡曾爾村	曾爾（ソニ）	828.5
吉野郡十津川村	玉置山（タマキヤマ）	699.0
吉野郡吉野町	吉野（ヨシノ）	511.0
宇陀市	大宇陀（オオウダ）	344.5
奈良市	針（ハリ）	276.5
五條市	五條（ゴジョウ）	221.0
奈良市	奈良（ナラ）	157.0
葛城市	葛城（カツラギ）	142.0
磯城郡田原本町	田原本（タワラモト）	112.5



# 大規模な土砂災害

## あしのせ谷・冷水・坪内谷の大規模な崩壊



あしのせ谷  
高さ130m 幅90m 奥行270m

この崩落が原因となり本流の  
あしのせ谷の崩落  
河川は降り続く雨により増水し、3日午後10時（推定）に南日裏地内あしのせ谷の山腹が崩落しました。

速度の遅い台風12号は大きな勢力を保ったまま近畿地方や四国地方を襲いました。  
天川村では8月31日（水）から雨が降り出し、台風が接近した9月3日（土）にはさらに風雨が強くなり、至る所の谷筋で小規模な土砂流出が発生しました。



冷水  
高さ210m 幅350m 奥行500m

その翌日9月4日（日）午後1時頃には坪内地内冷水にて山腹が大規模崩落（深層崩壊）し、河道を閉塞させたことにより、みるみるうちに上流域の水位が上昇しました。第一発見者の素早い通報により、坪内・南日裏地区住民に避難指示を発令、地

流水を変え、天川中学校の運動場が削り取られ、運動場に隣接して建てられた教職員住宅1棟（6戸）と村営住宅1棟（2戸）が濁流に流され、女性教員1名が行方不明となりました。



坪内谷  
高さ210m 幅130m 奥行330m

坪内谷の崩落  
冷水と同日に、坪内谷でも大規模な山腹崩壊があり大量の土砂が天ノ川へ流出、被害をより深刻なものとなさせました。

域住民の方々の迅速な行動により全員が無事に避難しました。また土砂ダムが決壊した場合に備え、下流域（九尾から塩谷）全域にも避難指示を発令しました。  
その後、土砂ダムは越流することにより決壊せず徐々に水位は低下しました。



# 被害の爪痕



# 被害状況

## 人的・住家被害、道路・インフラ・地すべり被害など

### 人的被害

9月3日深夜あしのせ谷の崩壊により対岸の教職員住宅に居住されていた教員1名が犠牲となりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆死者 1名

### 住家被害

被災者生活再建支援法の適用を受けたことにより、法の基準に基づき住家被害調査を9月下旬から実施、さらにカビなどによる追加の被害について再調査を適宜実施しました。

平成24年7月末時点の被害状況は次のとおりです。

◆全壊	13世帯
◆大規模半壊	18世帯
◆半壊	16世帯
◆床上浸水	4世帯
◆床下浸水	14世帯

### 道路等の被害

◆村道	8カ所
◆林道	24ヶ所
◆農地	6カ所
◆遊歩道	数カ所
◆登山道	数カ所

### 観光産業への被害

台風12号以降の宿泊予約のキャンセル数は風評被害も含め平成23年9月末で約6千人を数え、集客比率も9～11月にかけて前年度比40～80%の減少になるなど、直接被害のなかった洞川温泉などにも多大なる影響を及ぼしました。

### インフラ関連の被害

冷水の崩落などの影響により、中央・西部地区では長期間にわたり停電・断水・こまどりケーブルの断線など重要なライフラインに支障をきたしました。

### 通学への影響

冷水の崩落により県道53号線が通行止となったことにより、西部地区の幼稚園児・小中学校の児童・生徒は12月7日にスクールバスほほえみ号が運行再開するまでの間、旧天川西小学校を「分教室」として学ぶこととなりました。

### 地すべりによる影響

9月6日広瀬地区の地すべりの危険が高まったことから地区全域に避難指示を発令、安全性が確認される9月13日までの間、区民の方々はふるさとセンターつどいへ避難されました。

また、これに伴い県道53号線も広瀬地区内で通行止となり、西部地区へのアクセス手段は西の谷林道のみとなりました。



# 生活道路の復旧

## 県道53号 高野天川線の通行規制



あしのせ谷と冷水の大規模な崩壊により生活道路である県道53号線が長期にわたり通行止を余儀なくされ、地域の方々にも大な支障を及ぼしました。

奈良県吉野土木事務所の懸命な復旧作業により、通行規制は段階的に緩和されましたが、現在も降雨や現地の状況により緊急的に通行止を行うことがあり予断を許さない状況です。

### 運行時間制限

平成23年11月15日 規制緩和  
7:00~8:30 17:00~18:30 (2トン以下)

平成23年11月28日 規制緩和  
6:20~8:30 17:00~19:00 (全車両)

平成23年12月7日 規制緩和  
6:20~8:30 12:00~13:30 17:00~19:00

平成23年12月21日 規制緩和  
6:20~21:00

平成24年2月14日 規制緩和  
6:20~22:00

平成24年4月27日  
終日通行可能 (雨量等規制あり)



平成23年9月末 災害直後



平成24年3月29日 応急工事完了

# 被災者支援

ボランティア活動・義援金・支援物資など

## ボランティア活動

奈良県社会福祉協議会の指導・協力のもと天川村社会福祉協議会が天川村災害ボランティアセンターを9月8日に開設、9月13日までの6日間、延べ533人の方に参加していただきました。

募集は奈良県社会福祉協議会がホームページで受付を行い、橿原神宮前駅から天川村までのボランティアバスを運行していただきました。

作業内容としては、被災家屋の家具の運搬、片付け、清掃等



で期間中53件のニーズに対応しました。また9月8日から10日までの3日間で1,100食分の昼食の炊き出しを行っていただきました。



## 義援金

天川村の義援金受付窓口を平成23年9月12日から平成24年3月31日まで7ヶ月にわたり開設しました。村内外の各種団体・個人様から総額4,206万230円の義援金をいただきました。

## 支援物資

飲料水や食糧、衣類など多数の支援物資が全国から寄せられ、役場山村開発センターで受付を行いました。

いただいた支援物資は全て被災された方々や孤立地域へ配分いたしました。



# 支援



# 災害当時を振り返って

## 冷水崩落の第一通報者

西岡 康博氏

河川の水位が上がっていたので自宅前キャンプ場の被害状況を点検



していたところ、下流から2mほどの津波のような水がせがえって来るのが見え、上流からの増水した水とぶつかり3mほどの水柱が立つのが見えた。急激に水位が上昇したため自ら裏山へ避難しながら役場へ通報を行った。

この素早い通報のおかげで、防災行政無線による避難指示、消防団や警察、区民が協力し合い、指示発令からわずか30分あまりで全員が無事に避難できました。

## 冷水崩落地の下流の状況

西部地区在住の方

冷水が崩落した際、それまで台風で増水し濁流だった川の水がピタッと止まり水が流れなくなりました。

これは一大事と思い、至急村役場へ連絡を行った。

またその後、西部地区が孤立した際には車を運転できる若い方がお年寄りの買い物などを代行するなど、地域の助け合いによって災害後の厳しい生活をなんとか乗り越えてきた。

この通報により西部地区一帯に高台への避難指示を発令、結果的に土砂ダムは徐々に越流しただため住家への大きな被害はありませんでした。

## 災害後のアンケート調査

奈良県により災害後の皆様の生活状況についてアンケート調査を行いました。そのなかにあったご意見のいくつかを紹介します。

- ◆ 停電の時、黒電話が使えた
- ◆ 安全な道路の確保を望む
- ◆ 診療所の医師が巡回してくれて助かった
- ◆ ボランティアに助けってもらい感謝している
- ◆ 土砂ダムの土砂を早く取り除いてほしい
- ◆ 避難所が川のそばにあるので見直しが必要と思う
- ◆ 災害時にはできるだけたくさん情報してほしい
- ◆ 情報の伝達手段を充実させてほしい

通報やコメントをいただいた皆様、ありがとうございます。

# 通報 速報





## 天川村紀伊半島大水害復旧復興計画（抜粋）

### 計画の趣旨

紀伊半島大水害により天川村は道路網、河川、山林、住宅などの広範囲にわたり被害を受け、とくに住宅や道路等の地域生活や産業を支える基盤そのものに甚大な被害をもたらしました。この災害からの復旧を進めるとともに『安全で安心して暮らせる村づくり』に向けた計画的な復興に取り組み、将来の天川村のあり方を提示していくために、この計画を策定します。

### 復旧復興にむけた分野別の取り組み

- ① 国道、県道、村道等の応急復旧 迂回路（林道西の谷線・高原洞川線）の改良整備 など
- ② 堆積土砂対策 土砂捨て場の確保 など
- ③ 林地崩壊地の対策 治山事業、防災を目的とした森林整備の実施（特別間伐）など
- ④ 水道施設、観光施設の復旧 小規模水道施設整備事業補助金（簡水未普及地域）など
- ⑤ 商工観光の支援 宿泊施設等の復旧に係る利子補給制度、復興特別事業「天川村とくとく商品券」の発行 など
- ⑥ 教育施設の復旧 天川中学校の復旧 など
- ⑦ 被災児童・生徒への支援 分教室の設置、生徒のこころの健康相談 など
- ⑧ 災害廃棄物の支援 被災家屋の解体・処分、河川景観障害木等の除去 など
- ⑨ 被災者支援 義援金、見舞金、支援金、医療費等一部負担金減免、こころの健康相談 など
- ⑩ ボランティアによる支援 被災家屋のかたづけ、そうじ など
- ⑪ 被災者事業所等への支援 台風12号災害復旧対策支援特別利子補給 など
- ⑫ 農林水産業の支援 農地・林道・作業道等の生活基盤の復旧 など

